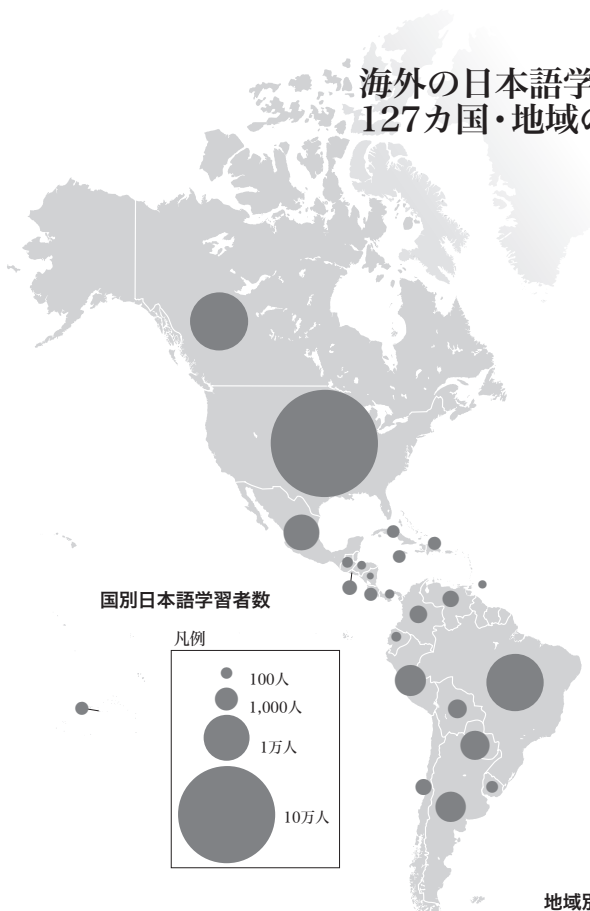
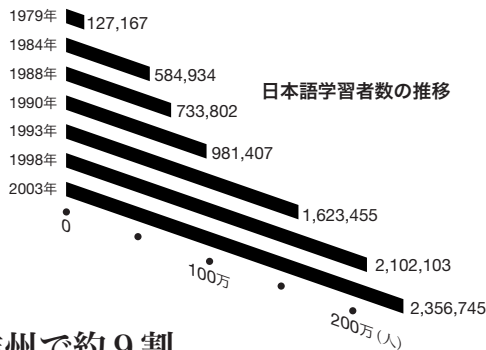


海外の日本語学習者は 127カ国・地域の235万人

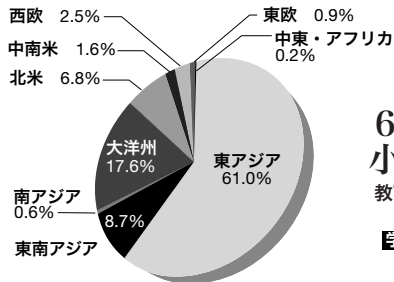


学習者数第1位は韓国で約89万人。世界の日本語学習者の約4割(37.9%)を占める。第2位は中国で約39万人、第3位はオーストラリアで約38万人。この3カ国で世界の学習者全体の約7割を占める



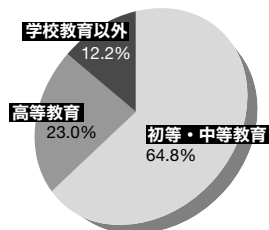
学習者は アジア・大洋州で約9割

地域別の学習者数の状況



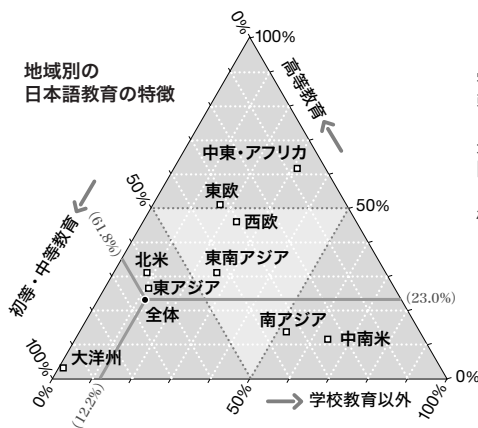
6割強の学習者が 小中高生

教育段階別学習者数



学習者数上位10カ国のうち、韓国、インドネシア、オーストラリア、ニュージーランド、米国では、初等・中等教育機関での学習者が過半数を占め、ブラジルでは学校教育以外の機関の学習者が8割近くを占める。中国、台湾は、高等教育での学習者の比率が5割超

地域別の 日本語教育の特徴



海外の 日本語教育の現状

日本語教育機関調査2003から

が明らかになりました。

日本語の学習者は235万人あまり。ただし、この数には、テレビやラジオの日本語講座、インターネットなどを利用して独習している学習者や、個人教授について日本語を学んでいる人は含まれませんので、日本語を学習している人はもっとたくさんいると思われる。

日本語を学習する人の目的は、日本文化に関する知識を得たい、日本語を使ってコミュニケーションしたい、日本語という言語そのものに興味がある、の3つが主ですが、最近

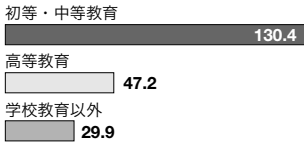
ジャパンファウンデーションは、世界の日本語教育の現状を正確に把握するため、2003年に、海外日本語教育機関調査を実施しました(回収率83.1%)。

今回の調査では、2003年現在、海外の127カ国・地域で日本語教育が行なわれていること

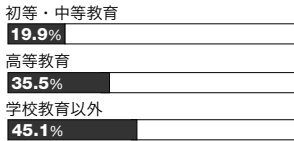
日本語教師の7割が 非母語話者教師

教育段階別の教師の状況

◆教師1人あたりの平均学習者数(人)



◆日本語母語話者教師 比率

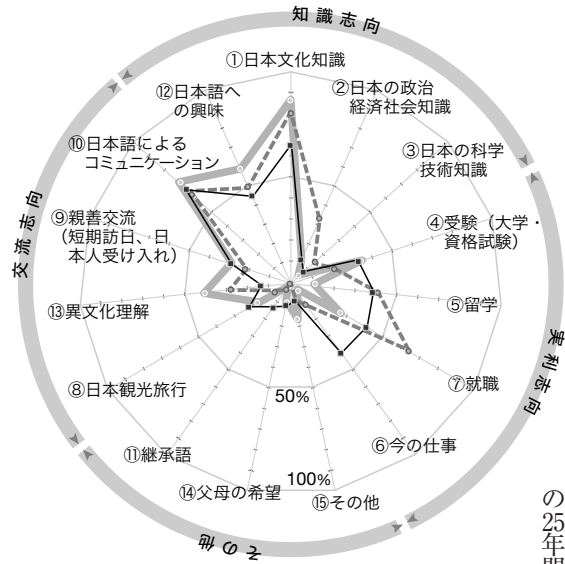


海外の日本語教師3万628人(台湾を除く)のうち、日本語を母語とする教師は約3割。約7割は日本語を母語としない現地の教師。日本語母語話者教師が1人でもいる機関は4割弱。とくに初等・中等教育機関では約2割と低い



日本文化に対する関心、 日本語そのものへの興味

初等・中等教育機関では、「異文化理解」と「受験準備のため」が、高等教育機関では「将来の就職」や「留学」が、また学校教育以外の機関では「将来の就職のため」「今の仕事で必要」「留学」「受験準備のため」の比率が比較的高くなっている



日本語学習の目的
 — 初・中等 (n=6,711)
 - - 高等 (n=2,143)
 — 学校教育以外 (n=2,247)

海外の日本語学習者の数は、1979年から2003年の間に18.5倍にも拡大し、日本語教育機関の数も10.7倍、日本語教師の数も8.1倍になっています。この数字が示す通り、海外の日本語教育の基盤はこの25年間で大幅に拡充しています。

「2003年海外日本語教育機関調査」の調査結果の概要をまとめた『海外の日本語教育の現状—日本語教育機関調査・2003年—(概要版)』は、ジャパンファウンデーションのホームページ (http://www.jpff.go.jp/j/japan_j/oversea/survey.html) でダウンロードできるほか、市販(300円(税込)/発売元・凡人社)もされている。また、詳細な分析、集計表、調査機関一覧が掲載された『海外の日本語教育の現状—日本語教育機関調査・2003年』(4800円(税込)/発売元・凡人社)もある。